

陸連時報 三

2017
平成29年

11 月号

題字は平沼亮三(初代陸連会長)の書

目 次

第25回日・韓・中ジュニア交流競技会 茨城大会を終えて (全国高等学校体育連盟陸上競技部競技力向上委員長 大林和彦).....	182
デカネーション2017(アンジェ/フランス)大会報告 (強化委員長距離・マラソンディレクター 河野匡/強化委員会コーディネーター 金子公宏)...	184
日清食品カップ第33回全国小学生陸上競技交流大会報告(普及育成委員会 岸政智).....	185
第210回、第211回国際陸上競技連盟(IAAF)カOUNシル会議報告(会長 横川浩) / IAAF競技規則 修正追加情報(陸連事務局国際担当部長 関幸生(IAAF技術委員会委員)).....	187
岐阜2018アジアジュニア陸上競技選手権大会 日本代表選手選考要項 / タンペレ2018 U20世界陸上競技選手権大会 日本代表選手選考要項(強化委員会).....	189
日本陸上競技連盟「JAAF-U13(小学生)指導者講習会」報告書 (普及育成委員会指導者育成部 君野貴弘).....	191
インターハイにおける科学委員会研究活動報告(科学委員会 高松潤二).....	192
大会観戦ガイド.....	194
陸協NEWS.....	196
事務局からのお知らせ.....	198

公告

「陸連時報」は公益財団法人日本陸上競技連盟定款第4条第6号の「機関誌」の性格を有するものですが、毎月「陸上競技マガジン」と一体として発行しています。陸上競技に関する啓発記事のほか、必要に応じて、評議員会、理事会の決定事項、各専門委員会、事務局からの報告、通達も掲載いたします。本時報に掲載した通達は、公式に通達したものと取扱わせていただきますので、登録競技者は本時報の掲載内容にご注意下さい。また、陸上競技指導者の方は、所属競技者にお知らせ下さるようお願い致します。

公益財団法人日本陸上競技連盟

第25回日・韓・中ジュニア交流競技会 茨城大会を終えて

全国高等学校体育連盟陸上競技部 競技力向上委員長 大林 和彦

平成29年8月24日から28日にかけて、茨城県で第25回日・韓・中ジュニア交流競技会（11種目）が、日本選手団259名、中国選手団256名、韓国選手団245名、茨城県選手団241名の参加を得て、日本体育協会・各競技団体の主催により開催されました。

陸上競技については、山形県で行われた全国高校総体の上位選手から随時選考された男子11名、女子11名の素晴らしい選手達が集結し、スタッフ6名、トレーナー1名併せて29名の参加となりました。会場は茨城県水戸市のケーズデンキスタジアム水戸で、試合及び練習の運営を茨城県陸上競技協会、茨城県高体連陸上競技部が行い、きめ細かく配慮された、非常に使い勝手の良い競技場でした。宿舎はルートイン水戸県庁前ホテルに宿泊し、すべてシングル対応で融通も利き使い勝手も良いものでした。食事についても朝食、夕食ともにバイキングで種類も豊富で日々変化のある飽きがこないような食事を提供していただきました。また、天候は8月末で非常に残暑が厳しい5日間となりましたが、好天に恵まれ良い環境で競技ができました。

日程については、初日の24日は過密で12時30分水戸駅集合、バスでホテルに移動、13時過ぎからホテルで結団式、そして

バスで約15分の競技場に移動し練習、練習後バスでホテルに帰りました。そこからバス移動し、全競技の開会式、夕食、ミーティングと初日から大変ハードな1日でしたが無事こなし、大会に臨むことになりました。

25日の第1戦は朝7時30分からバスで競技場に移動し、10時競技開始でトラック種目はすべて決勝のみで行われ、フィールド種目については6回の試技で行われました。大会では自分の試合が終了した選手がスタンドに集まり徐々に打ち解け大きな声で丸となって声援をし、チームを盛り上げてくれました。その結果日本代表の選手達が躍動し24種目中、男子6種目、女子10種目、計16種目で優勝しました。特に最後の男子4×100mRでは即席でバトンもかみ合わない中、40秒01の好タイムで優勝し、会場全体を盛り上げました。さすが、日本のジュニアトップアスリートだと思いました。また、フィールド種目では男子円盤投げの中村美史君がパーソナルベストを1cm更新しました。

26日は練習日となり午前中、各自が第2戦の調整をし、午後はホテルや近くのコインランドリーで洗濯するなどゆったりとした1日となりました。

27日の第2戦は第1戦と同じ日程で行われました。チーム

第25回日・韓・中ジュニア交流競技会 陸上競技 役員・選手名簿

平成29年8月18日

区 分	出場種目	ふりがな		性別	勤務先又は在学学校名	H29全国IH 順位	風力	最高記録	
		氏 名	姓 名					大会名	風力
1	団長	ひょうどう	しげのり	男	高知県立岡豊高等学校				
2	監督	おおばやし	かずひこ	男	広島県立西条農業高等学校				
3	コーチ	かわぐち	まさし	男	静岡県立藤山高等学校				
4	コーチ	ひらま	ただし	男	埼玉県立朝霞高等学校				
5	コーチ	かきうち	さだのり	男	東大阪大敬愛高等学校				
6	マネージャー	かどり	けんご	男	千葉県立小見川高等学校				
7	トレーナー	香取	ゆか	女	国立スポーツ科学センター				
		大株	結花	女	トレーナー				
8	選 手	みやもと	だいすけ	男	洛南高等学校	10秒51		10秒23	
		宮本	大輔	男	3年	1		平成29年度近畿高校総体	
9	選 手	ふくしま	さとる	男	富山県立富山商業高等学校	21秒04		21秒04	
		福島	聖	男	3年	1		平成29年度全国高校総体	
10	選 手	もり	しゅうじ	男	北海道栄高等学校	47秒45		47秒45	
		森	周志	男	2年	1		平成29年度全国高校総体	
11	選 手	はやしだ	ひろと	男	瓊浦高等学校	3分46秒17		3分46秒17	
		林田	洋翔	男	1年	5		平成29年度全国高校総体	
12	選 手	かつた	ますき	男	開星高等学校	14秒19		14秒18	
		勝田	肇	男	3年	1		平成29年度全国高校総体	
13	選 手	ばんどう	りゅうた	男	香川県立高松工芸高等学校	2m09		2m10	
		板東	琉太	男	3年	1		平成29年度香川県国体最終予選	
14	選 手	さかい	ゆうご	男	東京都立南多摩中等教育学校	7m68		7m68	
		酒井	由吾	男	3年	1		平成29年度全国高校総体	
15	選 手	かわにし	こうき	男	大阪桐蔭高等学校	15m40		15m40	
		川西	悠生	男	3年	1		平成29年度全国高校総体	
16	選 手	あべ	としあき	男	新潟県立長岡商業高等学校	17m05		17m05	
		阿部	敏明	男	3年	1		平成29年度全国高校総体	
17	選 手	なかむら	よしふみ	男	尼崎市立尼崎高等学校	49m64		50m89	
		中村	美史	男	3年	1		平成29年度兵庫県高校総体	
18	選 手	あざち	まさふみ	男	千葉県立東葛飾高等学校	68m73		68m73	
		畦地	史	男	3年	1		平成29年度全国高校総体	
19	選 手	こだま	めい	女	大分県立大分雄城台高等学校	12秒02	-3.0	11秒83	
		児玉	芽生	女	3年	1		平成29年度大分県高校総体	
20	選 手	あおの	しゅり	女	山形中央高等学校	23秒98	-0.2	23秒98	
		青野	朱李	女	2年	1		平成29年度全国高校総体	
21	選 手	かわた	あやか	女	東大阪大敬愛高等学校	53秒92		53秒59	
		川田	朱夏	女	3年	1		平成29年度大阪府高校総体	
22	選 手	みやで	あやか	女	東大阪大敬愛高等学校	2分06秒97		2分06秒79	
		宮出	彩花	女	2年	3		平成29年度大阪府高校総体	
23	選 手	わだ	ゆな	女	長野県立長野東高等学校	4分19秒69		4分17秒77	
		和田	有菜	女	3年	8		平成29年度日本選手権	
24	選 手	よしだ	ゆいり	女	石川県立小松商業高等学校	13秒68	-2.9	13秒68	
		吉田	唯莉	女	3年	1		平成29年度全国高校総体	
25	選 手	ひぐち	あいり	女	中村学園女子高等学校	1m74		1m76	
		樋口	愛莉	女	2年	2		平成29年度福岡県高校総体	
26	選 手	こうら	あやか	女	園田学園高等学校	6m17	+2.8	6m17	
		高良	彩花	女	2年	1		平成29年度全国高校総体	
27	選 手	おおの	ふみか	女	西武台高等学校	14m83		14m83	
		大野	史佳	女	2年	1		平成29年度全国高校総体	
28	選 手	さいとう	まさ	女	山形県立鶴岡工業高等学校	48m76		49m65	
		齋藤	真希	女	2年	1		平成28年度日本選手権	
29	選 手	たけもと	さす	女	尼崎市立尼崎高等学校	56m44		56m44	
		武本	紗奈	女	3年	1		平成29年度全国高校総体	

●派遣期間:8月24日(木)～8月28日(月) ●競技会:8月25日(金)～8月27日(日) ●会場:日本 ケーズデンキスタジアム水戸

の雰囲気は大変良く、お互い打ち解けた中、励まし合いながらの試合となりました。24種目中、男子6種目、女子10種目、計17種目で優勝しました。特にやり投げの畦地将史君が69m33のパーソナルベスト及び本年度高校最高記録を出し優勝。また、男子円盤投げで中村美史君が第1戦のパーソナルベストを更新する兵庫県高校新記録52m86で優勝しました。全体的に1日空けての大会となり体調面で疲れがあったと思いますが、概ね良いパフォーマンスを出してくれたと思います。

夕方からは全競技団体の閉会式となり茨城県の高校生の書道パフォーマンスやマーチングバンドの催しは大変感動するものでした。また、各国の代表競技団体(2チーム)のスタンツがあり大いに盛り上がりました。

この遠征は日本で行われた国際大会で言葉も通じ、特に生活で不自由なく過ごすことができました。このチームの雰囲気は非常に良く過ごしやすい遠征だったと思います。これも選手を日々指導されておられる指導者の皆様の日々の教育活動のおかげによるものであり、スタッフ・トレーナーの皆様のお遣いもあったからだと思います。お礼とともに大変感謝します。この選手の多くが2020年東京オリンピック出場や日本陸上競技界を担うアスリートに成長してくれることを願っています。

最後になりましたが、この大会に際しまして、御協力、御尽力いただいた日本体育協会、日本陸上競技連盟、(株)アシックスジャパン、(株)明治、茨城陸上競技協会、茨城県高等

学校体育連盟陸上競技部、各校選手指導者の皆様、スタッフの皆様に対しまして、心より感謝申し上げるとともに、今後ますます発展されることを祈念いたしましてお礼とさせていただきます。今後とも、宜しくお願いいたします。



第25回日・韓・中ジュニア交流競技会/茨城県水戸市(日本)

期日:2017年8月25日(金)【1日目】

男子リザルト

	選手名	記録	順位	備考
100m	宮本 大輔	10.40	1位	+0.6
200m	福島 聖	21.54	2位	+0.6
400m	森 周志	47.72	2位	
800m				
1500m	林田 洋翔	3:56.52	1位	
110mH	勝田 築	13.98	1位	+1.7
走高跳	坂東 琉太	1m96	3位	
走幅跳	酒井 由吾	7m26	1位	0.0
三段跳	川西 紘生	14m73	3位	+0.4
砲丸投	阿部 敏明	NM	-	
円盤投	中村 美史	50m90	2位	
	阿部 敏明	52m33	1位	
やり投	畦地 将史	66m15	2位	
4×100mR	1. 勝田 築	40.01	1位	
	2. 宮本 大輔			
	3. 福島 聖			
	4. 森 周志			

女子リザルト

	選手名	記録	順位	備考
100m	兒玉 芽生	12.01	1位	+0.5
200m	青野 朱李	24.22	1位	+2.5
400m	川田 朱夏	55.16	1位	
800m	宮出 彩花	2:09.56	1位	
1500m	和田 有菜	4:27.44	1位	
100mH	吉田 唯莉	13.77	1位	+2.8
走高跳	樋口 愛莉	1m72	1位	
走幅跳	高良 彩花	5m98	1位	+1.9
三段跳				
砲丸投	大野 史佳	14m46	2位	
	齋藤 真希	48m08	2位	
円盤投	大野 史佳	39m96	4位	
	武本 紗栄	52m18	1位	
やり投				
4×100mR	1. 川田 朱夏	46.78	1位	
	2. 青野 朱李			
	3. 吉田 唯莉			
	4. 兒玉 芽生			

第25回日・韓・中ジュニア交流競技会/茨城県水戸市(日本)

期日:2017年8月27日(日)【2日目】

男子リザルト

	選手名	記録	順位	備考
100m	宮本 大輔	10.42	1位	+0.9
200m	福島 聖	21.18	2位	+1.0
400m	森 周志	48.00	2位	
800m				
1500m	林田 洋翔	3:55.70	1位	
110mH	勝田 築	13.92	1位	+4.0
走高跳	坂東 琉太	1m93	3位	
走幅跳	酒井 由吾	7m57	1位	+2.1
三段跳	川西 紘生	14m98	3位	+0.9
砲丸投	阿部 敏明	16m51	3位	
円盤投	中村 美史	52m86	1位	
	阿部 敏明	49m33	2位	
やり投	畦地 将史	69m33	1位	
4×100mR	1. 勝田 築	40.16	1位	
	2. 宮本 大輔			
	3. 福島 聖			
	4. 森 周志			

女子リザルト

	選手名	記録	順位	備考
100m	兒玉 芽生	11.97	1位	-0.1
200m	青野 朱李	24.26	1位	+1.7
400m	川田 朱夏	55.42	1位	
800m	宮出 彩花	2:10.94	1位	
1500m	和田 有菜	4:27.10	1位	
100mH	吉田 唯莉	13.93	1位	-0.1
走高跳	樋口 愛莉	1m69	2位	
走幅跳	高良 彩花	6m08	1位	+1.9
三段跳				
砲丸投	大野 史佳	14m17	2位	
	齋藤 真希	49m61	1位	
円盤投	大野 史佳	40m37	4位	
	武本 紗栄	54m50	1位	
やり投				
4×100mR	1. 川田 朱夏	46.76	1位	
	2. 青野 朱李			
	3. 吉田 唯莉			
	4. 兒玉 芽生			

デカネーション2017(アンジェ/フランス)大会報告

強化委員長距離・マラソンディレクター 河野 匡 / 強化委員会コーディネーター 金子公宏

1. 大会概要

デカネーション2017が9月9日、フランス・パリより南西に約300kmにあるアンジェで開催された。日本選手団は男子11名、女子11名、役員10名のチームで構成され、男子主将山元隼、女子主将敷本愛体制で試合へ臨んだ。選手選考に関しては、インターカレッジと同時期ということもあり大学生の参加はならなかったものの、日本選手権で活躍した者、種目によってはインターハイで活躍した者ということもあり、今夏の世界陸上代表5選手や高校生4名が含まれ、ベテランから若手までバランスの取れた選手構成となった。初代表の選手も多かったが、「それぞれの目標・課題に向けて全力を尽くす」ことをテーマに、国際交流も念頭に入れながらの試合となった。

今年のデカネーションは、7チーム（日本、フランス、アメリカ、ポーランド、ウクライナ、中国、バルカン諸国連合）が出場し、男女10種目と本年度よりミックス4×400リレーが追加され、計21種目での国別対抗戦であった。地元フランスチームは世界陸上で活躍した選手が多く出場し、男子50km競歩で圧勝したYohan DINIZが出場したエキシビジョンレース（3000m競歩）が行われるなど凱旋試合の意味合いもあり試合は大いに盛り上がった。

アンジェは最高気温が20度前後で湿度が少なく、日本に比べ少し肌寒い気候であった。競技場はヨーロッパらしくサブトラックが併設されており、隣のホッケー場がウォーミングアップエリアであった（投擲練習場はあり）。試合は午後4時から8時までと非常にコンパクトな競技日程で、競技中、競技間ではMCや音楽・ダンスにより観客や競技者が楽しめる運営がなされていた。このような競技運営は日本も大いに見習うべきであろう。試合当日は、試合開始直後に横殴りの雨に見舞われ、気温も下がり競技日程上先の種目

の選手は大変な中での競技となったが、後に雨は上がり、後半にかけては問題なく競技が運営された。

2. 競技結果

日本は団体戦では4位であった（1位アメリカ122点、2位フランス103点、3位ポーランド95点、4位日本80点、5位バルカン諸国連合76点、6位ウクライナ65点、7位中国25点）。個人では、高校生の田中が女子2000mにおいて序盤より積極的なレースを見せ、最後は抜かれたものの3位でゴールし、見事5:53.47の日本高校最高記録を樹立した。男子800mでは川元が1:48.50で唯一の優勝を果たした。他では男子200mの原が積極的なレースを見せ、20.65のシーズンベストで2位、女子円盤投げの敷本が6位ではあったものの、50m18のシーズンベストの投てきを見せた。今回初めて行われたミックス4×400リレーでは、日本のみ男・女・女・男の走順で挑み、女子の力差をうまく埋めて2位となった。

大会を通して、特に投擲種目に関しては大変厳しい戦いとなったが、このような試合を強化として積極的に活用して欲しい。また情報の少ないミックスリレーであるが、もちろん個々の更なるレベルアップは大前提ではあるものの、様々な試合を通して対策・戦略を考える必要がある。

3. 最後に

今大会へ向けにご協力頂いた所属の指導者、関係者の皆様、日本陸連事務局、1人で全選手のコンディショニングを整えてくれた常友トレーナー、スタッフの方々にはこの場を借りて御礼を申し上げます。大きな問題や怪我もなく無事に大会を終えたことは皆様のご協力のおかげだと思っております。今回の経験が各選手のさらなる成長に繋がると同時に、一人でも多くの選手が東京五輪、さらにはその先で活躍することを願っております。ありがとうございました。

日本選手団

役職・出場種目	氏名	役職・所属	結果
団長	尾懸 貢	専務理事	
監督	河野 匡	強化委員長距離・マラソンディレクター	
短距離・リレーコーチ	杉井 将彦	強化委員会U20オリンピック強化コーチ	
ハードルコーチ	金子 公宏	強化委員会コーディネーター	
中距離コーチ	小林 史和	強化委員会男女中距離オリンピック強化コーチ	
跳躍コーチ	小松 隆志	強化委員会強化育成部跳躍オリンピック強化スタッフ	
投擲コーチ	永井 啓太	強化委員会強化育成部投擲オリンピック強化スタッフ	
トレーナー	常友 綾二	医事委員会トレーナー部	
渉外	大嶋 康弘	日本陸連事務局	
渉外	淺田 大吾	日本陸連事務局	
100m	丸鬼 巧	NTN	10.78 +0.5 6位
200m	原 翔太	スズキ浜松AC	20.65 +0.4 2位
400m	佐藤孝太郎	富士通	48.18 5位/混合4x400mR 3:27.88
800m	川元 奨	スズキ浜松AC	1:48.50 1位
2000m	松枝 博輝	富士通	5:23.15 2位
110mH	高山 峻野	ゼンリン	13.74 +0.5 2位
走幅跳	城山正太郎	ゼンリン	7m41 +0.3 5位
棒高跳	山本 聖途	トヨタ自動車	5m50 3位
やり投	齋藤 文孝	SELECT	67m04 5位
砲丸投	山元 隼	フクビ化学	16m93 6位
4×400mR (mix)	木村 和史	四電工	混合4x400mR 3:27.88
100m	市川 華菜	ミスノ	11.75 +1.2 4位
200m	今井沙緒里	飯田病院	24.60 +0.1 4位
400m	武石この実	東邦銀行	54.78 6位//混合4x400mR 3:27.88
800m	塩見 綾乃	京都文教高校	2:06.19 2位
2000m	田中 希実	西脇工業高校	5:53.47 3位 (日本高校最高)
100mH	木村 文子	エディオン	13.42 +1.2 5位
走高跳	高橋 渚	東京高校	1m73 5位
三段跳	宮坂 楓	ニッパツ	13m27 3位 -0.2
ハンマー投	勝山 眸美	オリコ陸上部	57m22 7位
円盤投	敷本 愛	新潟アルビレックスRC	50m18 (SB) 6位
4×400mR (mix)	奥村 ユリ	共愛学園高校	混合4x400mR 3:27.88
Mix Relay		佐藤/奥村/武石/木村	3:27.88 2位

日清食品カップ 第33回全国小学生陸上競技交流大会 報告

普及育成委員会 岸政智

日清食品カップ第33回全国小学生陸上競技交流大会は、47都道府県代表の小学生競技者1026名および指導者326名の計1352名を集め、平成29年8月18日（金）より8月19日（土）までの2日間の日程で、横浜市日産スタジアムを主会場とし、新横浜プリンスホテル・新横浜国際ホテルを選手村として、研修会・競技会を開催いたしました。日清食品カップ第33回全国小学生陸上競技交流大会の概略を下記の通り報告いたします。

第1日目（8月18日・金曜日）～前日フリー練習会・指導者研修会・監督会議～

小学生の研修として、安藤百福発明記念館（愛称：カップヌードルミュージアム）の見学を例年通り実施し、競技場に到着した選手団から順次前日フリー練習としました。主競技場で100m・80mH・跳躍、補助競技場でリレー、投てき練習場でジャベール投のフリー練習会を行いました。投運動につきましては、昨年より従来のソフトボールから、楯円球のジャベールを使用して行いました。

フリー練習は、一時的に降雨があった程度ではほぼ予定通りに実施することが出来ました。また、都道府県ごとに集合写真の撮影を、練習会中に第2曲走路インフィールドにて撮影しました。

練習会的一方、各選手団2名の指導者に参加していたが、15時30分から16時25分まで指導者研修会を実施いたしました。今回は伊藤静夫普及育成委員会副委員長による講演を行いました。小学生については、相対的年齢効果が顕著であり、それを踏まえた指導を行うことが重要とのことでした。またアメリカのプロ競技では、選手の出生地を調べたデータにも触れ、50万以下の都市から約8割がプロの競技者になっているなど非常に興味深いデータを紹介しておりました。

小学生・中学生の年代は、結果を意識し過ぎることな

く、将来を見据えた期待や声掛けをする（ピグマリオン効果）などが競技力を伸ばすことに繋がるということでした。

指導者研修会後の16時30分より監督会議が行われ、競技運営上の諸注意や開会式などの諸連絡確認がされました。監督会議は17時30分に終了し、1日目の全日程を終えることが出来ました。

第2日目（8月20日・土曜日）～開会式・指導者表彰・競技会・表彰式～

夜半に降った雨の心配もなく、開会式は予定通り競技場メインスタンド前で行われました。47都道府県の選手・指導者による堂々の入場行進がととても壮観でした。

整列後、主催者を代表して公益財団法人日本陸上競技連盟 横川浩会長が登壇し開会の挨拶、後援・協賛者を代表されまして公益財団法人安藤スポーツ・食文化振興財団理事長であり日清食品ホールディングス株式会社代表取締役社長・CEO 安藤宏基様よりご挨拶をいただきました。引き続き、横浜市副市長 柏崎誠様より祝辞をいただきました。尾縣貢専務理事の登壇後、選手宣誓は新潟県代表の深森博英君と中倉茉咲さんにより行われました。最後に日清食品グループ陸上競技部の皆さんの紹介を行い、閉式通告により開会式を終えました。また今年度は陸上競技部の皆さんが選手団応援席を訪問し、選手達と交流をしていただきました。

開会式に引き続き、小学生陸上競技の普及発展に貢献されました指導者の皆さんに対して、「安藤百福記念章」の授与式が行われ、各都道府県陸上競技協会より推薦された47名の受賞者に対して、日本陸上競技連盟 横川浩会長から表彰状、公益財団法人安藤スポーツ・食文化振興財団理事長・日清食品ホールディングス株式会社代表取締役社長・CEO 安藤宏基様から記念盾が授与さ



れました。

表彰終了後の9時30分に友好女子100mから競技が開始されました。小学生アスリートの真剣な競技が展開され、トラックレースでは、適度な追い風と天候に恵まれて、5年男子100m、女子80mHで大会新記録が出ました。また男子ジャベリックボール投げでは、1位から6位までが大会新というかつてないハイレベルな結果となりました。

競技につきましては、Eテレで8月26日(土)14時から15時30分まで録画にて放映されました。また、競技結果につきましては、日本陸上競技連盟ホームページにてご覧下さい。

各種目の表彰式ではプレゼンターとして、佐藤悠基選手(日清食品グループ陸上競技部)、福島千里選手(札幌陸協)、末續慎吾選手(SEISA)、高瀬慧選手(富士通)が入賞者に賞状・メダル・トロフィーを授与してくれました。

来年度第34回大会以降も、大会開催の基本理念(交流・研修を中心に考える)を踏まえながら、指導者の皆様の

ご意見等を検討し、改善させてまいりたいと考えております。今後とも本大会に対するご理解ならびにご協力をお願い申し上げます。

最後に、ご後援いただきましたスポーツ庁、横浜市、公益財団法人安藤スポーツ・食文化振興財団、公益財団法人日本体育協会日本スポーツ少年団、読売新聞社、ご協賛いただきました日清食品ホールディングス株式会社、ご協力いただきましたアシックスジャパン株式会社、株式会社ニシ・スポーツ、ミズノ株式会社、会場を提供いただいた日産スタジアムをはじめ多くの関係各団体・各位に対し、心から感謝申し上げ、第33回全国小学生陸上競技交流大会の報告といたします。

謝辞

第33回全国小学生陸上競技交流大会の開催にあたり、主管いただきました神奈川陸上競技協会役員・競技審判員・普及部の皆様、補助員としてご協力頂きました東京学芸大学・東京女子体育大学・日本女子体育大学・桐蔭横浜大学の皆様に対し、心より厚くお礼申し上げます。



第210回、第211回 国際陸上競技連盟(IAAF)カOUNシル会議 報告

会長 横川 浩

第210回国際陸上競技連盟カOUNシル会議(2017年7月31日)及び第211回同会議(8月13日)がロンドンで開催されたので、国際陸上競技連盟(IAAF)のカOUNシルメンバーとして参加した。同会議の概要は以下の通りである。

1. Sebastian Coe会長報告

2012年ロンドンオリンピックのレガシーは様々な形で受け継がれているが、その一つとして、世界陸上競技選手権ロンドン大会が実現する事になった。本大会は、“選手の競技レベルが最も高く、参加選手数が最も多く、そして、チケットが最も売れた大会”として、後世に残る大会となる。IAAFは、今後も改革への取組みを継続するが、陸上界の中心は常に“選手”であり、如何に陸上をスポーツファンに提供していくのかを、新たな大会運営方式やコミュニケーション方法を模索する事で追及していく。厳しい船出から2年が経ったが、過去の省察に留まらず、未来を見据えて進展する事が重要な時期に入っている。

2. Olivier Gers CEO報告

➢ IAAF戦略の目標は、3つの柱(①エリート ②一般大衆 ③組織)に於ける進化と位置づけられ、現案は以下の通りである。

①陸上界には、秀でた才能を有するエリート選手が約2500名おり、それらの選手が参加する競技会では、最高の競技会運営が必要とされる。大会運営方法を常に進化させ、競技や選手の見せ方、若い世代のファンを取り込む方法を検討する事を最優先課題とする。

②ランニングイベントや各加盟団体(NF)との協力体制の強化・推進が必須である。キッズ・アスレティックス・プログラムの改良は課題である。RDC(Regional Development Center)とHPTC(High Performance Training Center)の業務監査報告が行われ、各エリアによって課題や必要性が違う事から、今後は、各エリアが中心となって活動を行い、IAAFは各センターの指導的役割を果たす。Eラーニングや大学等との連携に積極的に取り組み、エリア間の情報共有を推進する。

③IAAF組織体制の強化のために、有能な人材を確保し、スタッフ内の連携改善、運営基盤確立、業務効率向上に注力した。様々な新しい取り組みが行われている中、今回の“Athletics Connect”(コンベンション)では、パネル形式で、ジェンダーバランス、エリア・アライメント、テクノロジー、ディベロップメント、ソーシャルメディア、コーチング等について、議論される。

➢ パートナーシップ契約の締結

①ITN Productions社と、ホスト放送及びメディア制作のジョイントベンチャー会社を設立し、2018年1月より始動する事で合意した。ワールド・アスレティックス・シリーズ、インドア・ツアー等のIAAF主要大会の映像制作に加え、陸上界の情報を

様々な媒体を通じて常時提供していく。

②EBU(欧州放送連盟)、ESPN(イーエスピーエヌ)と複数年契約を結び、今後3回の世界陸上競技選手権大会、世界室内選手権大会、ワールド・アスレティックス・シリーズに関する、メディア・ライセンスを認めた。今後は2社でヨーロッパとアフリカの2大陸に於ける権利を有する事になり、従来の放送配信に加え、デジタル媒体を通じた情報配信にも重点をおく。

➢ 競技会カレンダーの包括的な見直しを2020年までに完成させる。

3. 競技会関連報告

➢ U18世界陸上競技選手権大会(ナイロビ・ケニア)には、125チーム、747選手が参加し、観客総動員数は140,000名。大会運営を通して、多くの経験が蓄積され、素晴らしいレガシーが残された。

➢ ロンドン世界選手権には、201チームと難民チーム(ART)、中立選手チーム(ANA)が参加し、選手数は2027名(男子1079名、女子948名)、役員数は823名であった。チケット販売率は95%。オブザーバー・プログラムには37の団体から78名が参加。コーチ・カンファレンスは4日間で、延べ633名が参加。バイオメカニカル・スタディーは、42名の研究員が32種目で実施した。

➢ 次の提案が承認され、IAAFウェブサイト公表されている。

①U20世界選手権(タンペレ・フィンランド)参加標準記録

②世界チーム競歩選手権(太倉・中国)タイムテーブル

③ユースオリンピック(ブエノスアイレス・アルゼンチン)タイムテーブル

④コンチネンタルカップ(オストラバ・チェコ)タイムテーブル

⑤ワールド・インドア・ツアー2018年カレンダー

⑥ワールド・チャレンジ2018年カレンダー

4. ロシア問題

調査委員会の6月27日付報告書を受け、資格停止処分延長を7月2日に決定していたが、IAAF憲章15条に従い、8月3日に開催されるIAAF総会に諮る事を決めた。尚、総会でも処分継続が決定され、ロシア陸連の現況は以下の通りである。

①フランス捜査当局への協力体制は確立されたが、選手への聞き取り調査、反ドーピング文化の定着が不十分である。

②居場所情報提供の対象となる、国際レベルの選手が74名、国内レベルの選手が113名おり、検査体制は改善されているが、対象選手を更に増やす予定である。

③資格停止処分を受けたコーチが、活動を継続していた事への状況報告書が未提出である。

④マクラーレン・レポートに対する正式な回答がない。

- ⑤クリーン・スポーツ・ムーブメントへの支持とその活動の保護が推進され、反ドーピング文化は徐々に定着しているが、地域レベルでの対応策は更に推進する必要がある。
- ⑥WADAはRUSADAに対して資格回復のための12項目の条件を提示しており、それが全て満たされ、独立した規則遵守機関になる事が必須である。RUSADAは外部専門家と英国反ドーピング機関の監視下で検査の再開が認められたが、全面的な活動再開にはWADAの査察を受ける必要がある。

5. IAAF規則と規定

次のIAAF規則と規定の修正が確認された。

- ①総会議事進行に関する規則が6月30日に承認され、ロンドン総会から適用された。
- ②利害対立・利害開示・贈与に関する規則を改定し、IAAFスタッフや役員にも適用される事を明確にした。
- ③アンチドーピング規則21条3項を修正し、2009年以前の再検査のケースへの適用について記載した。
- ④身元審査規則の記載内容を微修正すると同時に、忌避のプロセスを記載した。
- ⑤ANA規定（中立の立場で競技会に参加する場合の規定）が承認された。
- ⑥世界陸上競技選手権大会の競技規程改定を7月21日に承認し、50km競歩への女子選手の参加を認めた。

6. その他

- “女性のためのディベロップメント・スカラシップ”が設立され、ロンドン世界選手権に、6エリアから各1名の女性代表が出席した。
- Youth Engagement & Social Media Commissionの範疇は、全ての委員会の中でその座組が必要である事から、Youth Councilという組織に発展するべきであると提案され、基本的には承認されたが、2019年の総括的な委員会の見直しの中で再精査する。
- Gender Leadership Taskforce（ジェンダーに配慮したリーダーシップ育成の特別委員会）が立ち上げられ、各レベル（IAAF、エリア、NF）で、女性がリーダーシップを取り、活躍出来る俎上を確立する事を目的に活動を行う。
- IAAFの会計監査機関をErnst & Young（アーンスト・アンド・ヤング）とする。
- ロンドン総会では、Open Vote方式（記名投票）が採用されたが、2019年総会では、選挙も含めた全ての決議でOpen Voteにするのが良いのか、再検討する。
- IAAFの監視下にある5か国（エチオピア、モロッコ、ベラルーシ、ケニア、ウクライナ）のアンチドーピング体制に関する進捗状況が報告され、11月のカウンシル会議で、各国に対するアクションプランが明確にされる。
- ヨーロッパ陸連が、エリア記録の見直しについて議論を重ねている中、その報告を待って、IAAFとしても世界記録の見直しについて検討する。混合リレーの世界記録の公認については、検討を進める。

IAAF競技規則修正追加情報

陸連事務局国際担当部長 関幸生 (IAAF技術委員会委員)

陸連時報5月号の「国際陸連 (IAAF) 技術委員会報告」のなかで、IAAF規則修正の手続きについて言及した。その中で、技術委員会会議で検討された修正案は、「4月にロンドンで開催されるカウンシル会議（理事会）に提案され、承認を待つことになる」と報告した。

報告の通り、4月の理事会で修正案は承認。5月4日に、IAAFサイトで公示され、11月1日からの発効に向け、現在、IAAF技術委員会内で、2018年版ルールブック編纂の作業が進められている。

先に報告の通り、IAAF憲章では、修正されたIAAF規則の発効は11月1日から定められている。ただし、国内で適用される日本陸連競技規則としては本連盟競技運営委員会での検討を経て2018年4月1日から有効となる。

時報5月号では、大きな規則改正としてつぎの2件を解説している。

1. テイク・オーバーゾーンの変更 (第170条3)

2. フィールド試技時間の変更 (第180条18)

しかしながら、「フィールド試技時間の変更」に関しては、IAAF内部でも運用が困難ではないかとの根強い不安の声があることから、IAAF選手コミッション、IAAFコーチコミッションなどとの意見交換を継続し、ギリギリの調整作業がおこなわれていることをご承知いただきたい。現状で、つぎの選択肢がある。

- ・理事会承認通りに実施
- ・保留とし、次年度以降に修正の方向で再検討
- ・時間を緩和して実施（適当困難な種目は、1分のままにするなど）

先の報告でも解説したが、この規則修正は、「競技会のスピードアップにより、魅力的な競技会運営を目指す、IAAFの強い意向によるもの」であることから、調整は容易ではないようである。最終的な結論については、本年11月1日にIAAFサイトにアップされる予定のIAAF競技規則2018年版で確認いただきたい。

なお時報5月号で報告した2件に加え、IAAF理事会で承認された次の改正も重要な内容である。

3. 走幅跳と三段跳のナンバーカード (ビブス) も1枚でよいこと (第143条7)

※日本では、国内適用で運用されている規則がIAAFでも適用となる。以前、日本としてIAAFに提案した際は、否決されたが、ビブスの痕跡をめぐるトラブルが相次いだことから、日本の主張が受け入れられたかたちとなった。

4. スタート時の他者への妨害行為に「音声」のほか「動き (びくり等)」を追加 (第162条5(C))

繰り返しになるが、日本国内でどのような適用になるかは4月1日発行予定の日本陸上競技連盟競技規則でご確認いただきたい。

岐阜2018アジアジュニア陸上競技選手権大会 日本代表選手選考要項

強化委員会

1. 目標

参加者全員がメダル獲得および入賞を目指す。

2. 方針

個人種目での成果を出すことを目的とする。また、最重要競技会である タンペレ 2018 U20世界選手権での成功を念頭においた戦略的派遣を行う。

3. 参考競技会

- (1) 2018年度高校総体各都道府県予選およびその予選大会
- (2) 2018年度日本グランプリシリーズ及びゴールデングランプリ
- (3) 2018年度地区学生陸上競技対校選手権大会
- (4) 2018年度地区実業団陸上競技選手権大会
- (5) 第57回全日本競歩輪島大会 男女10km ジュニア競歩

※ただし、選考会議までに終了した大会を対象とする。

4. 選考基準

- (1) 本連盟の指定するU20オリンピック育成競技者で強化育成部が推薦する競技者。

※選考に際しては、本連盟主催の合宿の参加状況を考慮する。

- (2) 将来、日本代表選手として活躍が期待される強化育成部が推薦する競技者。

5. 選考方法

以下の優先順位に基づいて選考する。

- (1) 選考基準に則り強化育成部選考会議にて選考原案を作成し、強化委員長及び専務理事が承認する。
- (2) 育成と普及に配慮して、各ブロックの極端な人数差がないようにする。

6. 補足

- (1) 各種目3名まで出場可能。
- (2) 対象者は1999年1月1日から2002年12月31日生まれの競技者。
- (3) 本大会は、2018年6月7日から10日まで岐阜市で開催される。
- (4) エントリールールの詳細は、大会組織委員会からの発表後に公表する。

タンペレ2018 U20世界陸上競技選手権大会 日本代表選手選考要項

強化委員会

1. 目標

東京2020オリンピック競技大会、またその後の国際競技会で活躍できる競技者を育成する。

2. 編成方針

ジュニアカテゴリーにおけるトップレベルの競技者でチームを編成する。また、ジュニア期の育成過程を配慮および将来性を見込んだ競技者を選考し、シニアカテゴリーの強化につなげられるようにする。

3. 選考競技会

- (1) 女子3000m、男女5000m、男女3000mSC、男子10000m
特別レース設定予定（決定後公表）
- (2) 男子ハンマー投
・第11回大川杯ハンマー投競技会

4. 参考競技会

- (1) 男子110mH、男子砲丸投、男子ハンマー投、男子円盤投
・第33回U20日本陸上競技選手権大会(2017年度)
・第11回U18日本陸上競技選手権大会(2017年度)
・2018年度日本学生陸上競技個人選手権大会
- (2) 女子3000m、男女5000m、男子10000m、男子110mH、男女3000mSC、男子砲丸投、男子円盤投、男子ハンマー投以外の種目
・第33回U20日本陸上競技選手権大会(2017年度)
・第11回U18日本陸上競技選手権大会(2017年度)
・2018年度日本学生陸上競技個人選手権大会
・2018年度高校総体各都道府県予選
・2018年度高校総体各地区予選
・2018年度地区学生陸上競技対校選手権大会
・2018年度地区実業団選手権大会

- ・第57回全日本競歩輪島大会 男女10km ジュニア競歩 (2018年4月15日：石川)
- ・第34回U20日本陸上競技選手権大会 混成競技 (2018年開催日未定：長野)
- ・岐阜2018アジアジュニア選手権 (2018年6月7日～10日：岐阜)
- ・2018日本グランプリシリーズ プレミア
- ・2018日本グランプリシリーズ
- ・セイコーゴールデングランプリ陸上2018 (2018年5月20日)
- ・強化育成部が認めた国際競技会

5. 選考基準

編成方針に基づき、下記の優先順位で日本代表選手を選考する。

- (1) 女子3000m、男女5000m、男子10000m、男女3000mSC
 - 1) 選考競技会で、本大会の入賞が期待される記録を満たした競技者
 - 2) 選考競技会で、国際陸上競技連盟（以下、IAAF）が定める参加標準記録を満たした競技者
 - 3) 将来、日本代表選手として活躍が期待され、強化育成部が推薦する競技者
- (2) 男子110mH、男子砲丸投、男子円盤投、男子ハンマー投
 - 1) 参考競技会で、本大会の入賞が期待される記録を満たした競技者
 - 2) 参考競技会で、IAAFが定める参加標準記録を満たした競技者
 - 3) 将来、日本代表選手として活躍が期待され、強化育成部が推薦する競技者
- (3) 女子3000m、男女5000m、男子10000m、男子110mH、男女3000mSC、男子砲丸投、男子円盤投、男子ハンマー投以外の種目
 - 1) 参考競技会で、本大会の入賞が期待される記録を満たした競技者
 - 2) 参考競技会で、IAAFが定める参加標準記録を満たした競技者
 - 3) 参考競技会以外の競技会で、本大会の入賞が期待される記録を満たした競技者
 - 4) 将来、日本代表選手として活躍が期待され、強化育成部が推薦する競技者

6. 選考方法

- (1) 参加標準記録を満たした競技者の中から、選考基準に則り強化育成部選考会議にて選考原案を作成し、強化委員長及び専務理事が承認する。

- (2) 選考にあたっては、育成と普及に配慮して、各ブロックの極端な人数格差が無いようにする。
- (3) 同じ優先順位内での資格記録の比較は、2018年度の記録を優先する。

7. エントリールール

- (1) 参加標準記録の有効期間は2017年10月1日～2018年6月17日までとする。
- (2) 種目毎の代表は、IAAFエントリールールに則り2名以内（エントリーは最大3名）とする。
- (3) 対象者は、1999年1月1日から2002年12月31日生まれまでの競技者。
- (4) 800mまでは、資格記録として手動の記録は認められない。
- (5) 競歩種目の資格記録は、ロードでの記録も認められる。

8. その他

- (1) 選考競技会は、選考会議（2018年6月18又は19日予定）までに終了した競技会までを対象とする。
- (2) 本大会までに故障等により、競技力を発揮できない事態が生じた場合は代表を取消すことがある。
- (3) 本大会は、2018年7月10日から15日までフィンランド（タンペレ）で開催される。
- (4) 女子3000m、男女5000m、男子10000m、男子110mH、男女3000mSC、男子砲丸投、男子円盤投、男子ハンマー投のエントリールールは、別途定める。
- (5) 選考に際しては、本連盟主催の合宿の参加状況も考慮する。

日本陸上競技連盟「JAAF-U13(小学生)指導者講習会」報告書

普及育成委員会指導者育成部 君野貴弘

期日：平成29年8月24日(木)

場所：千代田区立千代田小学校(体育館)

指導講師：小林敬和(普及育成委員会副委員長)、岸政智(普及育成委員会育成部副部长)

君野貴弘(普及委員会指導者育成部委員)、八幡賢司(普及委員会)

講習のスケジュール：

午前：講義(講義内容：発育発達段階を踏まえたU13競技者の育成)と投・走・跳の基本的な動きについてグループディスカッション形式での講習

(各種目をローテーション)

午後：実技講習(走・投・跳の基本的な動きを実際に活動)各種目30分程度。

今回行われた、日本陸上競技連盟(以後日本陸連とする)としては、小学校の先生を対象にした初めてのU13指導者(小学生)講習会を実施しました。日本陸連では、毎年日本各地でU13やU16の選手のための講習会を開催していますが、今回のような指導者向けの講習会で、しかも学校の先生を対象とする講習会は、初めて実施するため、事前の準備など、どのように展開していくべきなのか手探りの状態で当日を迎えました。参加した小学校の先生は延べ16校(千代田区・台東区・江東区・大田区・調布市)・34名の先生に参加していただきました。講義の最初は、講師の自己紹介でコミュニケーションを取り、講師と受講生の緊張をほぐしてから始めました。コーチング学の座学は、小林敬和(普及育成委員会副委員長)が、コーチの理念やコーチングスキル、デモンストレーションの効果などの講話をし、指導する上で必要なことを話しました。受講していた先生方もメモを取りながら真剣に話を聞いていた姿が印象的でした。また、コーチングで大切なことの一つである安全対策について、日本陸連が作成した安全対策のDVDを鑑賞し、安全の配慮こそコーチングの基本であることをDVDを通して確認していただきました。その後、実技講習(実技講習前の技術的重要ポイントと段階的な指導方法)では、グループディスカッションを3グループに分かれて、走・投・跳の技術的重要ポイントを講師と受講生が質問をしやすい環境で行いました。受講生は走のドライブ(前方への推進力の形成)のつくり方や速く走るための基本的な動作の練習方法、腕の振り方、速く走るためのコツなどを詳しく聞いていました。投では、現在小学生の投げる力が低下していることもあり、速くに投げるコツや速くに投げるための体の使い方(パワーポジションのつくり方)など熱心に質問をしていました。跳では、高跳びと幅跳びのテイクオフ(踏切り)の姿勢やタイミング、また、踏切においての重心の位置についても非常に重要であることを確認し受講生とディスカッションしながら行いました。

午後の講習は、走・投・跳の実技講習を行いました。実技講習にあたり体育館の安全面について考え、実技講習が安全に行える環境である状態であるかを確認後安全に指導できる環境を確認してから実技講習を行いました。投は、「ジャベボール」を使用して、投げの基本姿勢(パワーポジション)の構え方を教えた後、前方や周囲

の安全確認の徹底や6列で投げるときに、左利きの人が真ん中にいる場合は、左サイドの一番外側にするようにしたり、一直線に並べるのではなく階段状に並ばせることで、隣と接触しないようにする安全の配慮事項も確認しました。今回は得点が良い的を使用したもので、それに向かって投げるため受講生の皆さんは真剣に取り組んでいました。最後にチーム対抗戦で得点競争をしました。個人の投げる力やコントロール力が付くとともに、チームで得点を競うことによって、個人の能力を伸ばすことと集団での交流(コミュニケーション)も生まれ楽しく運動ができていました。

走では、午前中の技術的重要ポイントであるドライブポジションを得るための動きづくりを行いました。スティックラダーを使用して、まずはももを高く上げる姿勢を意識しながら歩行運動を行いました。その後は、もも上げ動作を行い意識するポイントなどを1本1本丁寧に指導していました。最後にスティックラダーの間隔をスタート位置から徐々に間隔を伸ばすことで、ドライブポジション(推進力)が生まれやすくなる動作を行いました。受講生全体の動きを観察しましたが、生徒により動きのデモンストレーションができるまでは、更にドライブポジションの習得が必要であるように感じました。

跳では、投の大切なポジションのパワーポジション・走の大切なドライブポジションを習った後ですが、跳の動きのテイクオフの姿勢がパワーポジションであり、踏切り一歩前の動作がドライブポジションであるという意識を持ちながら、踏切りドリルを行いました。高跳びの踏切りドリルと幅跳びの踏切りドリルは同じテイクオフでも跳ぶ方向が違うことをイメージしながらドリルをしました。高跳びのドリルはスキップしながら踏切足を強調し、かかとから着地し足の裏全体で踏切り、つま先まで意識して離陸するように指導しました。また幅跳びは、1歩助走付きの踏切りドリルで、上に踏切るのではなく、前に速くに跳ぶ意識で動作を行いました。その後、跳躍の基本動作であるバウンディングを体験した後、チーム対抗の立ち幅跳び大会をしました。跳の運動の動作は児童生徒によって個々の能力の差が出てしまう種目であるので、色々な跳の運動を教えることによって、走や投の力も上がる運動なので、陸上運動や多様な動きづくりの運動で取り入れてほしいと思います。

今回このような機会を頂き、小学校の先生を対象に講習会ができたことはとても有意義だったと感じました。運動会や区の陸上競技大会などが行われていることもあり、非常に熱心に基本的なことや技術的なこと、各種目の動きのメカニズムなども私たちが陸上競技の専門的な知識がある講師だからこそ教えられる部分がたくさんあると実感しました。これからの選手育成に必要なことは運動も理論的に教えることができ、また実践的に教えてあげられれば、陸上競技の普及にも大きく貢献できるように感じました。先生たちが真剣に陸上競技を学ぶ機会をさらに増やしていけるように普及育成委員会でも講習会を増やしていくことがこれからの課題であります。尚、今回場所を提供していただいた千代田区立千代田小学校の皆様感謝申し上げます。今後も陸上競技の普及育成に力を注いでまいります。以上報告でした。



インターハイにおける科学委員会研究活動報告

科学委員会 高松潤二

1. 活動の概要

2017年7月29日から8月2日までの5日間にわたって、秩父宮賜杯第70回全国高等学校陸上競技選手権大会が山形県天童市のNDソフトスタジアム山形を会場として開催されました。今年も各地区の予選会を勝ち抜いた高校生アスリートによる熱戦が繰り広げられ、日本高校記録やU18日本記録が出るなど、特に女子選手と中・長距離種目の活躍が目立った大会でした。

科学委員会では、今大会に出場した高校生アスリートを対象として、①バイオメカニクスデータの収集・分析、②体調・食生活状況・スポーツ障害およびサプリメント摂取に関する調査を実施しました。得られたデータは、日本陸連として科学的な観点から研究活動を行う際に活用されるとともに、それら成果を広く周知し陸上競技の普及・啓発や競技力の向上に役立つ知見を創出する等の取り組みを行っています。今回のような高校総体における研究活動は、1991年の世界陸上東京大会におけるバイオメカニクス研究特別班の活動を契機として、日本選手権をはじめとする主要大会での日本選手や外国の有力選手を分析するという活動と同時並行的に始まり（1993年の栃木インターハイ以降）、今回が25回目の活動となりました。活動の内容は開催年毎に多少の変遷をしていますが、基本的には競技パフォーマンスのモニタリングと分析であることはかわっていません。ここまで継続してこられたことに加え、活動の内容が充実したものになったのは、今大会を含めてこれまでお世話になりました主催者の方々をはじめとする関係各所のご協力のたまものです。

さて、得られたデータは日本陸上競技連盟のウェブページや定期刊行物（陸上競技研究紀要）、陸上競技マガジン等で公表しています。そして、近年、全国各地で開催される高体連合宿における指導者研修会やオリンピック育成競技者研修合宿における競技者への講義等、これまでに得られたデータが参照資料として活用されています。例えば、ある選手の2～3年間の競技記録とバイオメカニクスのデータの変化のようすや、日本や外国のトップ選手とのデータ比較を通して、現状のジュニア期の選手の課題を明らかにしたり今後の展望について検討を加えたりするといったことです。

2. 活動メンバー

今年度は、データ分析の対象範囲を少しでも広げるといふねらいと、競技種目の増加（女子三段跳、女子棒高跳、および女子ハンマー投）にそれぞれ対応するため、

昨年の16名から活動メンバーを21名に増員しました。活動にあたっては、以下に示す4つのグループに分かれて活動を行いました（◎は各グループの主任）。

〈短距離・障害〉◎貴嶋孝太、柴山一仁、渡辺圭佑、福田厚治、川端良介、山元康平、綿谷貴志、大西克広、淀野輪河

〈中・長距離〉◎榎本靖士、杉本和那美

〈跳躍〉◎清水悠、柴田篤志、大津卓也、松下翔一、村木有也

〈投てき〉◎村上雅俊、高松潤二、山本大輔、増田たまみ、三宅庸平

※順不同、敬称略。

これら活動メンバーは、科学委員会の委員のみで構成するのではなく、分析担当スタッフの後進育成や各地域との連携等を視野に入れて委員外からも選考されています。

3. 活動の内容

(1) バイオメカニクスデータの収集・分析とフィードバック

バイオメカニクスデータは、主としてビデオカメラとレーザードップラー型速度測定器を用いて収集しました。ビデオカメラはレースパターンの分析や2次元または3次元の動作分析を行うため、1つの種目につき1～3台のカメラで撮影しました。カメラは一般に購入可能な民生用のものですが、毎秒100コマ以上で撮影可能なハイスピードカメラを使用する種目もありました。また、動作分析にはキャリブレーションと呼ばれる作業を行いますが、長さの分かっている物差しのような棒を競技が行われるエリアに設置して事前または事後に撮影しました（この作業にあたっては、大会運営にあたられていた審判

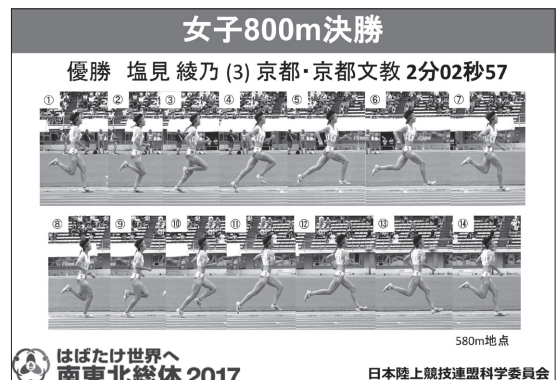


図1 連続写真の例（女子800m決勝）

や補助員の皆様にご協力いただき、この場を借りてお礼申し上げます。カメラ映像は競技場内の分析ルームにもちかえり、その場で分析作業を行いました。速度測定器は100m走や走幅跳の助走等、直線的に疾走する選手の走速度を測定するために用いました。これによって得られるデータを速度曲線としてグラフ化することで、走パフォーマンスの比較が簡便にできるようになります。

以上のようにして得られたデータは、データフィードバック用の帳票にまとめ、種目毎に競技場入り口横に設置して頂いた掲示板へ掲出しました。図1および図2はその一例を示したものです。即時的にデータを算出する必要があるため、全ての選手のデータを期間中に掲出することは困難ですが、図1に示すように優勝者のフォームが分かるような連続写真と、そのときの基本的なデータ(図2)を算出・掲出しました。図2は女子800m決勝における上位3名の速度変化曲線(上位2名は日本高校新記録)のデータですが、各区間の平均走速度がレース中にどのように変化していたかが一目で分かるかと思えます。特に、このレースでは2位だった選手も日本高校記録を上回るタイムでフィニッシュしていることから、上位選手間のデータを比較することでそれぞれの選手のレースパターンを簡便かつ客観的に振り返られるのではないのでしょうか(なお、女子800mについては、ピッチやストライドの変化等をより詳細に分析した報告が陸上競技マガジン誌上に掲載されるかと思えます)。また、図3は、同様に期間中に掲出した女子やり投げの帳票です。日本の投てき種目はやり投げ以外の種目がなかなか世界のレベルに追いつけない現状ですが、これをいかにして打破していくかが課題となっています。帳票には大会に出場した選手のデータだけでなく、日本あるいは世界のトップ選手のデータについても同じように値を示すようにしています。これは、高校生の皆さんに、世界レベルを視野に入れて日頃のトレーニングに取り組んで頂きたいという思いの表れであるにご理解頂ければ幸いです。ちなみに、図3の連続写真の下にあるパフォーマンス

ステータの一覧表には、今回の女子やり投げの上位選手は世界レベルの同世代選手と比較しても十分勝負できるレベルであったことを示しています。

(2) 体調・食生活状況・スポーツ障害およびサプリメント摂取に関する調査

この調査では、各種目の上位入賞者8名(8チーム)を対象に質問紙と返信用封筒を配布し、質問紙に回答した上で返信して頂くという形式をとりました。質問紙の質問項目は実施年度によって多少の変遷をしていますが、基本的には栄養摂取(サプリメント含む)に関することや競技生活の中で発生した外傷や障害、専門種目に関すること等からなります。得られたデータは、陸上競技の普及・啓発や育成・強化に資する知見を導き出すための基礎的な資料として活用させていただきます。

4. おわりに

高校生年代のアスリートが臨む競技会は高校総体だけではありませんので、他の主要大会でも日本陸連としてデータ収集に出向きたいところですが、今回ご紹介した様な活動には多大のリソース(マンパワー、資金等)が必要であることも一面の事実ですので、科学委員会としてはこれらデータを十分に活用できるよう今後もさまざまな創意工夫をしていきたいと思えます。なお、この大会期間中に掲出した帳票データは、日本陸上競技連盟のホームページからダウンロードが可能になる予定ですので(「日本陸連について」->「委員会情報」->「科学委員会」の順にクリック)、興味・関心のある方はぜひ閲覧してみてください。

最後に、科学委員会の活動に対してご理解・ご協力を賜りました関係各所の皆様に重ねてお礼申し上げます。

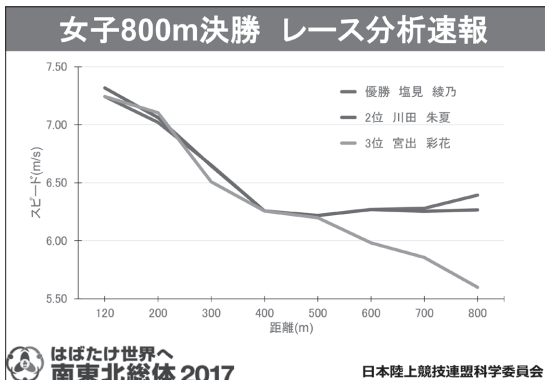


図2 レース分析結果の例(女子800m決勝)



図3 女子やり投の結果帳票

大会観戦ガイド

第48回ジュニアオリンピック 陸上競技大会

中学生アスリートの夢の舞台、ジュニアオリンピック！リレー日本一を決定する日本選手権リレーも同時開催！ぜひ日産スタジアムに足を運んで下さい！

▼日時：10月27日（金）～10月29日（日）

▼場所：日産スタジアム

神奈川県横浜市港北区小机町3300

▼アクセス：JR横浜線・市営地下鉄「新横浜」駅から徒歩15分、JR横浜線「小机」駅から徒歩5分

▼種目

〈男子〉

区分A：100m、200m、3000m、110mJH、走高跳、砲丸投

区分B：100m、1500m、110mH、走幅跳、砲丸投

区分C：100m、1500m、走幅跳

区分A・B・C共通：円盤投、ジャベリックスロー、4×100mリレー

〈女子〉

区分A：100m、200m、3000m、100mYH、走高跳、砲丸投



昨年度の大会より（B男子1500m優勝の石田洸介）

区分B：100m、1500m、100mH、走幅跳、砲丸投

区分C：100m、800m、走幅跳

区分A・B・C共通：円盤投、ジャベリックスロー、4×100mリレー

*年齢区分：2017年4月1日を基準として満年齢によって、下記のとおり3区分する

A：14歳以上～15歳未満（2002（平成14）年4月2日生～2003（平成15）年4月1日生）

B：13歳以上～14歳未満（2003（平成15）年4月2日生～2004（平成16）年4月1日生）

C：12歳以上～13歳未満（2004（平成16）年4月2日生～2005（平成17）年4月1日生）

▼入場料：1,000円（1日）

※当日券のみ

▼問合せ先：神奈川陸上競技協会

TEL：045-210-9660 / FAX：045-210-9667

▼日本陸連WEB内大会ページ

ジュニアオリンピック

<http://www.jaaf.or.jp/taikai/1382/>

第101回日本陸上競技選手権 リレー競技大会

リレー日本一を決定する日本選手権リレー！

ジュニアオリンピックも同時開催！ぜひ日産スタジアムに足を運んで下さい！

▼日時：10月27日（金）～10月29日（日）

▼場所：日産スタジアム

神奈川県横浜市港北区小机町3300

▼アクセス：JR横浜線・市営地下鉄「新横浜」駅から徒歩15分、JR横浜線「小机」駅から徒歩5分

▼種目

【日本選手権リレー】

〈男子 2種目〉

4×100mリレー、4×400mリレー

〈女子 2種目〉

4×100mリレー、4×400mリレー

▼入場料：1,000円（1日）

※当日券のみ

▼問合せ先：神奈川陸上競技協会

TEL：045-210-9660 / FAX：045-210-9667

▼日本陸連WEB内大会ページ

日本選手権リレー

<http://www.jaaf.or.jp/taikai/1381/>

**第3回さいたま国際マラソン兼ジャカルタ2018
アジア競技大会日本代表選手選考競技会
兼第101回日本陸上競技選手権大会女子マラソン
マラソングランドチャンピオンシリーズ2017-2018
～東京2020オリンピック日本代表選手選考競技会～**

今年で第3回目となるさいたま国際マラソンは、ジャカルタ2018アジア競技大会の女子代表選手選考を兼ねているほか、IAAFシルバーラベルの大会であり、国内外の有力選手が集います。

埼玉を舞台に繰り広げられる熱戦にご期待下さい。

- ▼日時：11月12日（日）9時10分スタート
- ▼会場（スタート・フィニッシュ）：
さいたまスーパーアリーナ
- ▼アクセス：JR京浜東北線・宇都宮線・高崎線「さいたま新都心」駅下車、徒歩すぐ
- ▼コース：さいたまスーパーアリーナ発着、IAAF・日本陸連公認コース
- ▼テレビ放映予定
地上波：日本テレビ
11月12日（日）9：00～11：50（生中継）
CS放送：日テレジータス
11月19日（日）15：30～18：30
- ▼問合せ先：さいたま国際マラソン大会事務局
048-832-2561（平日／10：00～18：00）

▼日本陸連WEB内大会ページ

<http://www.jaaf.or.jp/competition/detail/1223/>
大会公式サイト

<https://saitama-international-marathon.jp/>



昨年度の大会より（5位（日本人トップ）の那須川瑞穂）



昨年度の大会より（女子4×100mR決勝。優勝は大阪成蹊大）



一般財団法人岡山陸上競技協会

〒700-0012 岡山市北区いずみ町2-1-11 岡山県陸上競技場内
TEL.086-214-3156 FAX.086-214-3156
http://www.tiki.ne.jp/oka-rikkyou/

世界選手権に400mHに安部(デサント)・女子マラソンに重友(天満屋)が出場し頑張ってくれました。

この日本代表としての頑張りを本県のパワーとし今後の大会へ生かしていきたい。

昨年度の全国高校総体がおわり、来年度は全日本中学校選手権が岡山で開催される。今まで岡山での全国大会開催は多くないが、隔年おきに全国大会を運営するにあたり、中体連陸上競技部を中心に陸上協会も協力しながら準備を進めている。

トラックシーズン後半を迎え、愛媛国体では少年勢を中心とした活躍が期待される。トラックシーズンを有終の美で締めくくりマラソン駅伝シーズンへ勢いを繋ぎたい。

11月には岡山中心部を走り抜け人気も高まった第3回おかやまマラソンが実施される。県民の声援で全ランナーを応援したい。

今後おこなわれる実業団駅伝・高校駅伝・都道府県駅伝でも選手の活躍を期待したい。

(文責:強化委員長 広瀬洋介)



一般財団法人山口陸上競技協会

〒753-0815 山口市維新公園4-4 維新百年記念公園陸上競技場内
TEL.083-920-6125 FAX.083-920-6125
http://yaaf.jp/

山口陸上競技協会は、一般財団法人化となって今年で8年目に入り、今年2017年は第4期の1年目となります。元山口県知事の二井関成氏を新しい会長に迎え、組織の改編や専門委員会業務等の見直しを適宜行い、選手強化・競技運営力の向上をめざし山口県の陸上競技の発展のために尽力して参る所存です。

現在は2018年に開催決定の日本選手権の実行委員会発足に向けて準備中です。大会成功はもちろんのこと、全国規模の大会地元で開催することによる短期・中期・長期の相乗効果をねらい、ジュニア世代を中心とした選手強化面、競技役員の世界交代を含めた競技運営面でも準備をすすめています。さらに、今年から6月開催となった日本陸連後援の田島直人記念陸上競技大会をより発展させた大会に成長させることも急務として取り組んでいます。

明るいニュースとしては、台湾の台北で開催されたユニバーシアードで下関市出身の棟久由貴(東京農業大学)が女子ハーフマラソンで金メダルを獲得。10000mの雪辱を果たすとともに力感溢れる走り、県民に勇気と希望を与えてくれました。

また、ジュニア層を中心に全国大会での活躍のあった夏でした。高校総体では大玉華鈴(西京3年)が七種競技で準優勝。8月末のでは念願の全国優勝を果たしました。

全国小学では先村若葉が6年100mで5位、(光スポ少)、西村萌衣(徳山RCコネット)が走り高跳び5位、濱田美幸(ふくっ子)が走り幅跳び7位と3種目で入賞しました。

(文責:事務局長・普及育成委員長 藤田昌彦)



一般財団法人広島陸上競技協会

〒730-0011 広島市中区基町4-1
県立総合体育館(公財)広島県体育協会内
TEL.082-223-3256 FAX.082-222-6991
http://hiroshimaf.org/

今年も、広島が歓喜に沸いた。広島東洋カープの2連覇リーグ優勝で広島は真っ赤に染まり、市内のアーケードでは、見知らぬ者同士が、ひたすらハイタッチをしてすれ違い喜びを分かち合った。なんとも今時にない、温もりのある光景があった。なぜ、こんなにまでスポーツは人を熱くし、パワーを生みだすのか。

今年度、役員の変更があった。広島の上界を熱く盛り上げたい思いの三宅勝次新会長の強いリーダーシップのもと、新体制で広島陸協がスタートした。陸上競技を愛し、陸上界を盛り上げていく「陸女の会」の立ち上げ、ジュニア層強化に向けた取組など、今後の陸上界を見据えた広がりのある企画、アイデアで動き始めた。

世界陸上では、広島で育った伸び盛りの高山峻野選手(ゼンリン)の110mH出場、100mHの木村文子選手(エディオン)の準決勝進出とハードル陣のうれしい活躍に広島が湧いた。

また、中国五県陸上競技対抗選手権大会では、広島チームが男・女優勝と総合優勝をし、完全優勝した。なかなか滑り出しの良い、新体制でのスタートとなった。2020年の東京オリンピックはもちろんのこと、ひとつ先を見据え、関係機関、関係団体と連携し、広島陸協の取組を展開していきたい。これからが、本格的なチーム広島の始動である。

(文責:企画広報委員長 藤原文代)



一般財団法人徳島陸上競技協会

〒772-0011 鳴門市撫養町大桑島字湊浜6-23
TEL.088-678-7914 FAX.088-678-7921
http://www.jaafokushima.com/

昨年は、本県からリオデジャネイロオリンピック・U20世界選手権大会・アジアジュニア陸上競技選手権大会などに出場するという素晴らしい活躍をする選手が輩出されました。中学生にとっても憧れの選手となっております。日本陸上競技連盟の掲げる「一人でも多くの競技者に、少しでも長く陸上競技を続けてもらうために」を実現できるよう中学部では、徳島県トップスポーツ競技育成事業に基づく中学研修会を予定しております。

昨年度は、日本中学校体育連盟陸上競技部長の舟橋昭太様をはじめ千葉県・奈良県・沖縄県から講師先生方を招聘し競技に関する知識や情報を共有するとともにトレーニング方法を楽しむ学び、本県の陸上競技の普及強化を図ることができました。本年度も引き続き県外より多くの先生方を招聘します。さらに12月には、日本陸上競技連盟主催のU16クリニックをボカリスエットスタジアムで行います。昨年度より始めた毎月1回の強化練習会も継続して実施しております。

少しずつ努力を積み重ねて、夢や目標にチャレンジし続けていきます。(文責:中体連専門部長 多田利行)



事務局からのお知らせ

◆◆ジャカルタ2018アジア競技大会に向けた戦いが始まっています!◆◆

来夏、インドネシア・ジャカルタで開催されるジャカルタ2018アジア競技大会のマラソン・競歩の選考競技会は下記の通りです。是非、競技場・沿道で代表をかけた熱い戦いに応援をお願い致します。

〈男子マラソン〉

- ・北海道マラソン2017 2017年8月27日(日)開催
- ・第71回福岡国際マラソン選手権大会 2017年12月3日(日)開催
- ・第67回別府大分毎日マラソン大会 2018年2月4日(日)開催
- ・東京マラソン2018 2018年2月25日(日)開催
- ・第73回びわ湖毎日マラソン大会 2018年3月4日(日)開催

〈女子マラソン〉

- ・北海道マラソン2017 2017年8月27日(日)開催
- ・第3回さいたま国際マラソン大会 2017年11月12日(日)開催
- ・第37回大阪国際女子マラソン大会 2018年1月28日(日)開催
- ・名古屋ウィメンズマラソン2018 2018年3月11日(日)開催

〈男子競歩〉

- ・第56回全日本50km競歩高畠大会 2017年10月22日(日)開催
- ・第101回日本陸上競技選手権大会・20km競歩 2018年2月18日(日)開催
- ・第42回全日本競歩能美大会 2018年3月18日(日)開催
- ・第102回日本陸上競技選手権大会・50km競歩 2017年4月15日(日)開催

〈女子競歩〉

- ・第101回日本陸上競技選手権大会・20km競歩 2018年2月18日(日)開催
- ・第42回全日本競歩能美大会 2018年3月18日(日)開催

◆◆日本選手権リレー・ジュニアオリンピックの動画を公開します!◆◆

10月27日(金)から10月29日(日)まで、神奈川・日産スタジアムで開催する第101回日本陸上競技選手権リレー競技大会、第48回ジュニアオリンピック陸上競技大会の動画を昨年に引き続き公開致します。激戦の様様をもう一度、お楽しみ下さい。

アクセスは <http://www.jaaf.or.jp/competition/detail/1007/> まで
注※アクセス先は昨年と異なりますのでご注意ください。



昨年のジュニアオリンピックの様子

陸連時報編集委員

◇編集委員

- 横川 浩 (陸連会長)
- 友永 義治 (陸連副会長)
- 八木 雅夫 (陸連副会長)
- 尾縣 貢 (陸連専務理事)
- 伊東 浩司 (陸連強化委員長)
- 風間 明 (陸連事務局長)
- 早川 大介 (陸上競技マガジン編集長)

◇時報編集室責任者

- 大嶋 康弘
- ◇時報編集担当
- 繁田 進
- 石塚 浩
- 青木 和浩
- 宮田 宏
- 廣瀬 静香

陸連時報編集室

〒163-0717
東京都新宿区西新宿2-7-1
小田急第一生命ビル17階
公益財団法人日本陸上競技連盟 内
TEL 03-5321-6580
FAX 03-5321-6591
WEBサイト <http://www.jaaf.or.jp/>
公式動画サイト <http://japanathletics.tv/>